

畑作技術情報

発行 令和7年5月27日
第 4 号
たいせつ農業協同組合
営農部 農産販売課
本所 営農センター 57-2357
支所 営農センター 87-4111

秋まき小麦の生育は起生期以降気温が高く経過したのもあり、平年並みとなっております。

現在の生育状況

	幼穂形成期	止葉期	出穂始	出穂期	出穂揃
本年	5月1日	—	—	—	—
平年	5月2日	5月22日	5月30日	5月31日	6月2日

止葉期以降の追肥について

止葉期以降の窒素追肥は千粒重を高める効果があります。しかし、倒伏や子実タンパクを高める恐れがある為、土壌条件や、生育状況を考慮しましょう。

幼形期型追肥の場合、1回目の追肥から2～3週間程度あけて窒素4kg/10aを目安としましょう。3回目の追肥となる場合は前回の追肥から2～3週間程度あけて窒素4kg/10aを行います。

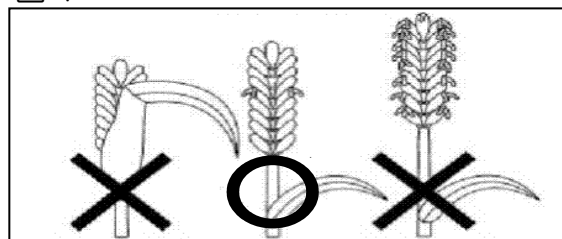
茎数が多く、葉色が濃い場合は倒伏のリスクがある為、追肥を控えましょう。

赤かび病の防除について

＜赤かび病＞

赤かび病は小麦で最も重要な病害となり、出穂・開花期以降の降雨、曇天時に多発します。赤かび病が発生しカビ毒（DON）濃度が1.1ppmを超えた場合検査等級が規格外となりますので、開花状況を確認し開花始めに防除を実施しましょう。（図1、表1参照）。

図1



穂の出始め
(薬剤が付着
しづらい)

防除適期
開花始め
(穂が抽出)

開花期
(すでに感染
の恐れあり)

表1 赤かび病参考防除歴

	生育ステージ	薬剤名	系統名	病害・希釈倍率	10a 当り 薬量	回数
				赤かび病		
1回目	開花始め	シルバキュアFL	DMI	2,000	50ml	2
2回目	前回から7日後	ミラビスFL	SDHI	1,500	66ml	2
		ベフトップジンFL	MBC・ グアジソン	1,000	100ml	1
3回目*	前回から7日後	シルバキュアFL	DMI	2,000	50ml	2

※3回目の防除は春まき小麦の方は実施しましょう。（秋まき小麦は2回目まで）

※ベフトップジンFLはR7年11月より使用不可になります。在庫管理にはお気を付けください。

～農作業事故・農薬のドリフトへ細心の注意を払いましょう～